
愛知医科大学医学部

年次報告書

2021(令和3)年度



愛知医科大学 医学部

医学教育分野別評価 愛知医科大学医学部医学科 年次報告書

2021 年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33

はじめに

本学医学部医学科は、2019 年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2020 年 6 月 1 日より 7 年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33 を踏まえ、2020 年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33 の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 建学の精神を使命として定めている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ なし

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項等無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準：適合・・・指摘事項等なし

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生代表がカリキュラム検討部門に参加して教職員と自由に意見交換を行っている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2018年より各学年次の代表学生がカリキュラム検討部門に参加しており(資料1)、教員と引き続き意見交換の出来る機会を維持していく。
- ・ 医学教育センターカリキュラム評価部門は、医学教育センターから独立し、教育プログラム評価委員会を設置することを検討している(資料2)。新たな委員会にても引き続き学生を参画させ、教員と意見交換を行う予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料1： 2020年度医学教育センター部門員表(学生委員含む)

資料2： 愛知医科大学医学部教育プログラム評価委員会規程

1.3 学修成果

基本的水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 2016 年度に策定した卒業時のコンピテンス、コンピテンシーを達成するためのマイルストーンを 2018 年度に策定している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ コンピテンス、コンピテンシーの達成度を調査するために、医学部 IR 室にて毎年アンケート調査を行っている(資料 3)。卒業時のみならず、2 学年次終了時、4 学年次臨床実習前にも調査を行い、それぞれの時点での達成度を確認している(マイルストーン調査)(資料 4)。

改善状況を示す根拠資料

資料 3 : 2019 年度卒業予定者アンケート(コンピテンス、コンピテンシー調査)

資料 4 : 2019 年度卒業時コンピテンシーマイルストーン調査

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒後研修終了時の学修成果を明確にし、卒業時の学修成果と関連づけて教育を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 卒後臨床研修センターと医学教育センターの 2 名が兼務している(資料 1, 5)。今後、学修成果を明確にするため兼務委員を増やすように検討していく。
- ・ 卒前・卒後の教育に関するシームレス化に向けて話し合いを開始した(卒前・卒後のシームレス化に関するミーティング)(資料 6)。今後は委員会(医学部卒前・卒後医学教育連携支援委員会)を設置し、卒前・卒後の連携を検討していく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 1： 2020 年度医学教育センター部門員表（学生委員含む）

資料 5： 2020 年度卒後臨床研修センター運営委員会名簿

資料 6： 卒前・卒後のシームレス化に関するミーティングの議事次第（2020 年度開催分）

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 今後、使命と学修成果を見直す際には、教員だけでなく、学生、職員も参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2020 年 4 月より医学教育センター内のカリキュラム評価部門に学生、有識者を加えて会議を行っているが(資料 7)、学修成果を見直すことはまだ行っていない。
- ・ 学修成果を見直す際には、教職員や学生など広く参画を呼び掛けることを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 7： 2020 年度医学教育センターカリキュラム評価部門員表

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 今後、使命と学修成果を見直す際には、他の医療職、患者など、より広い範囲の教育関係者の参加が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学習成果を見直す際には、他の医療職、広い範囲の教育関係者に参加してもらうとともに、地域住民の代表あるいは患者から学習成果に関する意見を医学部 IR 室が中心となって収集することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

2. 教育プログラム

2.1 プログラムの構成

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生の学修意欲を刺激する目的で、問題基盤型グループ学修など多様な教育・学修方法を推進していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2020 年度はコロナ禍においても、AIDLE-K（本学の moodle システム）を用いて課題の提供や小テストを実施してきた。また Web 会議システム（Zoom）を利用し、双方向性を担保した遠隔講義及び遠隔実習を行ってきた(資料 8)。これら ICT の活用は教職員に新たな気づきをもたらし、After コロナでも活用出来るものは積極的に取り入れてく予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 8： 2020 年度医学部第 1 回 FD 開催案内

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 1 学年次から 4 学年次にかけて、「早期体験実習」、「行動科学」、「プロフェッショナルリズム」、「地域包括ケア実習」、「コミュニケーション実習」などを組み合わせ、生涯学習につながる教育を体系的に行っていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ 生涯学習につながる学修態度の向上に資するために 2018 年度から導入された e ポートフォリオを有効に活用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ e ポートフォリオ導入が進まなかった理由の一つとして、教員側の不慣れさがあることが判明したため、教員 FD を行った際に、FD 振り返りを教員ポートフォリオに入れることを促し、教員側の問題点を解決するよう進めている(資料 9)。

改善状況を示す根拠資料

資料 9： 教員ポートフォリオ利用マニュアル

2.2 科学的方法

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 1 学年次の「初年次医科学セミナー」、3 学年次の「基礎医学セミナー」などにより、科学的手法の原理、医学研究の手法が教育されている。
- ・ 臨床実習の現場で ICT が活用され、EBM を実践していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 今まで 2 学年次の 1 週間で実施していた「基礎医学セミナー」を 2020 年度より 3 学年次の夏休み前及び後の計 2 週間に延長すると共に、希望学生には夏休み期間中も研究活動に参加できるよう配慮した(資料 10)。
- ・ クリニカル・クラークシップの現場では Up to Date を参照させ、常に新しい知見を自ら発掘し、学修に生かす能力を伸ばすよう促し、その評価を行っており、引き続き推進していく(資料 11)。

改善状況を示す根拠資料

資料 10： 2020 年度 3 学年次授業時間割

資料 11： 2020-2021 年クリニカル・クラークシップ B：指導医による学生評価シート

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 1～3 学年次の「選択講座」で、基礎科学、基礎医学の講座を中心に先端的な研究を学ぶ機会を設けていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2020 年度より選択講座を 4 学年次まで対象を拡大した(資料 12)。
- ・ 基礎科学、基礎医学の低学年の講座のみならず、臨床講座にも選択講座の開講を呼び掛けるようにし、より広く学生の興味に対応できる状態になっている(資料 13)。
- ・ 現在の開講講座には大人数の講義形式のものがいくつかあるため、少人数ゼミ方式の講座が増えるよう周知を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 12： 2020 年度教科案内

資料 13： 2020 年度選択講座一覧

2.3 基礎医学

基本的水準： 適合…指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを、基礎医学において 6 年一貫の全体のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 1 学年次「早期体験実習」での看護体験、3 学年次「地域包括ケア実習」での老健施設訪問などを通じて、今後益々増加する高齢者の医療実態を経験させている(資料 12)。
- ・ 臨床科目において更に垂直統合を推進出来るよう検討していく(資料 14)。

改善状況を示す根拠資料

資料 12：2020 年度教科案内

資料 14：2020 年度教務委員会議事録

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 「行動科学」、「プロフェッショナリズム」、地域医療等と連携した「地域社会医学実習」などを体系的に構築していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 「行動科学 1b」、「プロフェッショナリズム 1a」、「地域社会医学実習」は、体系的に学修できるように同一の科目責任者が多くの教員と協力して運営を行っており、今後も継続していく(資料 12)。

改善状況を示す根拠資料

資料 12：2020 年度教科案内

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを、行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学において 6 年一貫の全体のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを、6 年一貫のカリキュラムとして体系的に学修できるように垂直統合を進めるなど、議論を進めている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 4 学年次から 5 学年次にかけての 40 週の「クリニカル・クラークシップ A」と 5 学年次から 6 学年次にかけての 28 週の「クリニカル・クラークシップ 2」と段階的に患者診療への参加度をあげるプログラムを実践している。

改善のための助言

- ・ 全学生に重要な診療科で十分な臨床実習時間を確保すべきである。
- ・ 全学生が臨床実習の中で健康増進と予防医学の体験をすることができるよう工夫すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2019 年度からは、4 学年次から 5 学年次にかけて「クリニカル・クラークシップ A」を 40 週、5 学年次から 6 学年次にかけて「クリニカル・クラークシップ B」(2020 年度まで「クリニカル・クラークシップ 2」)を 32 週行い、臨床実習は計 72 週となり、より診療参加型臨床実習となるプログラムになっている(資料 15)。
- ・ 重要な診療科のうち、精神科、総合診療科、産科・婦人科、小児科においては、「クリニカル・クラークシップ A」で全学生が 2 週間の実習期間を確保してある。「クリニカル・クラークシップ B」においては、学内・学外選択により 4 週間の実習期間を確保している。クリニカル・クラークシップ B は選択であるが、2019 年度より 4 週/クールを 8 クール(2018 年度までは 7 クール)選択できることとなり、重要な診療科を従来より選択出来る機会が増えた。(資料 16)。
- ・ 地域医療での「クリニカル・クラークシップ A」では全学生がかかりつけ医に出向き、地域社会で求められる保健・医療などの活動を通して、健康増進の必要性・重要性を体験している(資料 15)。
- ・ 感染症科での「クリニカル・クラークシップ A」では、全学生が Infection Control Team (ICT) による病棟環境ラウンドに参加し、適切な感染症治療や感染予防策を実践している(資料 15)。
- ・ 2020 年度大学改革推進等補助金「感染症医療人材養成事業」に選定され(資料 17)、そ

の一環として個人防護具の着脱を OSCE の課題に取り入れたり、低学年においても学内・学外への実習時には、手指消毒を含めた感染対策演習を行ったり、常に感染対策を意識できるようプログラムを計画した(資料 18, 19)。

改善状況を示す根拠資料

資料 15：2019-2020 年クリニカル・クラークシップの手引き

資料 16：2019 年度クリニカル・クラークシップガイダンス

資料 17：「感染症医療人材養成事業」交付決定通知

資料 18：2020 年度臨床実習前 OSCE 課題

資料 19：2020 年度早期体験実習 1c ガイダンス資料

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 1 学年次から 6 学年次にかけて、計画的に患者と接する教育プログラムが実施されている。

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要となることを、臨床医学において 6 年一貫の全体のカリキュラムの中で検討することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 「社会や医療システム」に関わるものとして、1 学年次には倫理原則・法律を授業内容に追加した(資料 20)。
- ・ 2 学年次から 4 学年次に亘っては、プロフェッショナリズムの授業において、難病支援や多職種連携の現状、利益相反などの社会的な問題について学習する内容を追加した(資料 21-23)のに加えて、介護施設などの現場体験するために地域包括ケア実習を開始した(資料 24)。

改善状況を示す根拠資料

資料 20：2020 年度教科案内(生命倫理)

資料 21：2020 年度教科案内(プロフェッショナリズム 2)

資料 22：2020 年度教科案内(プロフェッショナリズム 3)

資料 23：2020 年度教科案内(プロフェッショナリズム 4)

資料 24：2020 年度教科案内(地域包括ケア実習)

2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準：適合…指摘事項無し

特記すべき良い点（特色）

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 水平垂直統合講義として開講されている「統合講義（腫瘍学、炎症学）」は、基礎医学、臨床医学講座が協力して実施されている。

改善のための示唆

- ・ 臨床医学において、現在は診療科別科目授業となっているが、今後水平的統合教育を推進することが望まれる。
- ・ 腫瘍学、炎症学の学修効果を評価したうえで、基礎・社会医学と臨床医学を統合した科目を広く導入することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2020年より「臨床遺伝学」が開講され、複数の臨床医学講座の協力による関連領域の水平統合講義として実施されている。基礎医学講座の協力による垂直的統合も含まれている（資料25）。
- ・ 臨床医学における垂直・水平統合講義（ジョイントセッション）は、従来は循環器学や消化器学など一部の主要科目にて実施していたが、2021年度より原則全ての科目で実施するよう周知を進めてきた（資料26）。

改善状況を示す根拠資料

資料25：2020年度教科案内（臨床遺伝）

資料26：2020年度教科案内の作成方法に関するFD

2.7 プログラム管理

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.33 の内容は以下のとおりである。

- ・ [権限を有するカリキュラム委員会]は、(中略)カリキュラム委員会は、教育方法、学修方法、学生評価およびコース評価/授業評価の立案と実施のために裁量を任された資源について配分を決定することができる。(領域 8.3 参照)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ カリキュラム検討部門に他の医療職、患者代表など、広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ カリキュラム検討部門は、地域の元教育委員会委員など学外者 3 名や、学生を含むメンバーで教育カリキュラムの改善を計画・実施してきた(資料 1)。
- ・ 他の医療職、患者代表の参加については今後検討していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 1： 2020 年度医学教育センター部門員表 (学生委員含む)

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学部 IR 室が 2018 年度に 1977 年から 2017 年度卒業生に対して、本学の卒前教育が継続的な生涯教育を実践出来る態度、姿勢が醸成出来ているかの項目も含めたアンケート調査を実施した(資料 27)。回収率は低かったが、この調査を継続的に実施する予定であり、それに向けて同窓会と連携を取りながら分析し、教育プログラムへのフィードバックを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 27：卒業生（同窓生）アンケート

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。
- ・ 進級判定や卒業判定に関して利益相反の規定を作るべきである。
- ・ 評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。
- ・ 評価結果に対して疑義申し立て制度を設けるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 知識、技能および態度を含む評価を確実に実施するために、各教科の評価方法およびその割合をシラバスに明示することにより、それぞれの評価法の活用を進めている(資料 12, 26)。
- ・ 利益相反に関する規定の策定を検討する。
- ・ 外部の評価者による吟味を可能にするために、クリニカル・クラークシップ B において多職種評価を義務付け、外部評価者による評価を開始しており、更に推進していく(資料 11)。
- ・ 総合試験以外の科目については疑義申し立て制度が整備されておらず、規定の策定を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 11：2020-2021 年クリニカル・クラークシップ B：指導医による学生評価シート

資料 12：2020 年度教科案内

資料 26：2020 年度教科案内の作成方法に関する FD

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。
- ・ 外部評価者の活用を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2019年にGPA制度による評価を開始し、学生評価の妥当性の検証の資料にすることを開始した(資料28)。これらの結果の分析を医学部IR室にて行うことを検討する。
- ・ 外部評価者の活用を進めるために、クリニカル・クラークシップBにおいて多職種評価を義務付け、外部評価者による評価を開始しており、引き続き推進していく(資料11)。

改善状況を示す根拠資料

資料11：2020-2021年クリニカル・クラークシップB：指導医による学生評価シート

資料28：GPAによる進級判定資料

3.2 評価と学修との関連

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学修成果を学生が達成していることを確実に評価すべきである。
- ・ 形成的評価と総括的評価の適切な比重により、学生の学修と教育進度の判定の指針となる評価を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学修成果を学生が達成していることを確実に評価するために、2・4・6年次に卒業時に習得しておくべき臨床能力(コンピテンス、コンピテンシー)、そのマイルストーンに関する調査(自己評価)を2019年に行った(資料4)。この結果を医学部IR室で分析することを検討する。
- ・ 年度途中に実施する保護者、学生面談の資料に試験の結果を含めるなどし、学生に成績のフィードバックを行う(資料29,30)。
- ・ 形成的評価および総括的評価の適正な比重については、医学教育センターおよび教務委員会にて継続的に協議をする。

改善状況を示す根拠資料

資料 4： 2019 年度卒業時コンピテンシーマイルストーン調査

資料 29： 指導学生の成績について

資料 30： 保護者への成績通知に関する資料

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム単位ごとに試験の回数と方法を適切に定めることが望まれる。
- ・ 学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 基本的知識の修得と統合的学修を促進するため、試験の回数と方法について担当教員、医学教育センター、および教務委員会で検討し、適正な回数を継続的に審議する。
- ・ 学生に対する評価のフィードバックのために、クリニカル・クラークシップの終了の際に評価内容の一部を明示することにより、2020 年度よりフィードバックを開始している(資料 31)。今後、すべての定期試験について、回答を開示することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 31： クリニカル・クラークシップ指導医による学生評価の学生へのフィードバック

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 多様な入学者選抜方法で学生を受け入れていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 入学後の学生の成績、生活習慣などの追跡調査を医学部 IR 室で実施・集積して、今後解析を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を明記することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 従来から一般入試の成績開示の要求がある場合に希望者へ成績開示しており、今後も継続していく(資料 32, 33)。
- ・ 入学試験委員会と協議して、他大学における疑義申し立て制度について有益な情報の調査・収集している

改善状況を示す根拠資料

資料 32 : ホームページ : 入試情報 (<https://www.aichi-med-u.ac.jp/su11/index.html>)

資料 33 : 一般入試成績開示の件数の推移

4.2 学生の受け入れ・・・指摘事項無し

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

4.3 学生のカウンセリングと支援・・・指摘事項無し

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

4.4 学生の参加

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命を見直す際には学生代表を参加させるべきである。
- ・ カリキュラム評価部門会議や学生生活委員会に学生代表を参加させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2020 年より各学年次の代表学生がカリキュラム評価部門に参加しており、教員と引き続き意見交換の出来る機会を維持していく(資料 1)。
- ・ 使命を見直す際には、学生代表の参加を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 1： 2020 年度医学教育センター部門員表 (学生委員含む)

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準:部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 適切にカリキュラムを実施するために教員の募集と選抜の方針を定め、履行すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教員の募集と選抜の方針として、本学のコンピテンス・コンピテンシー，教育理念に基づいた教育ができる人材を募集することを推進する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 若年人口が多いなどの地域に固有な問題に対処するために、診療科の充実を行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 私立大学研究ブランディング事業で長久手市民を対象とした研究を展開しており、市の特性を活かした予防医学，未病，若年からの対策等について，教育への展開を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 「選択講座」や「基礎医学セミナー」などにおいて教員の研究活動が学生の教育に活用されている。
- ・ 多様なテーマでFDが開催され、研修、能力開発支援に活かされている。
- ・ 教員の教育・研究活動に対し、大学が財政的支援を行う方針が策定され、履行されている。
- ・ 大学保育所の充実や臨床系女性教員の特別短時間勤務を設けるなど、女性教員のキャリア支援や男女共同参画推進に取り組んでいることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教員の研究活動を学生教育に活用する取り組みとして、「選択講座」や「基礎医学セミナー」など継続して実施し、より拡充していく(資料12)。
- ・ 女性教員のキャリア支援や男女共同参画の更なる推進のため、大学にダイバーシティ推進委員会を設置した(資料34)。
- ・ 診療活動の学術的業績への反映は、教員評価委員会で今後検討する(資料35)。

改善状況を示す根拠資料

資料12：2020年度教科案内

資料34：ダイバーシティ推進委員会規程

資料35：第3回教員活動状況報告書

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ クリニカル・クラークシップは学生3名に対し教員1名以上が指導している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 科目毎の教員と学生の適正な比率は継続的に検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 図書室、マルチメディア教室、シミュレーション教育施設等を含め、カリキュラムが適切に実施され、保障されるだけの十分な施設・設備が整備されている。
- ・ 4～5学年次(セミナー室)と6学年次(医心館)の専用自習スペースが整備され、活用されていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 情報基盤部門では、学生や教職員に学外から電子リソースへのアクセスを可能とする環境整備を行い、コロナ禍でも学習や研究に支障がでないよう改善を行っている。
- ・ 2019年8月にシミュレーションセンターを拡充(470m²から577m²へ拡充、事務スペース40m²含む)し、医学部学生のみならず、病院職員、看護学部学生などより多くの部門で使用している(資料36, 37)。

改善状況を示す根拠資料

資料36：ホームページ：シミュレーションセンター

(<https://www.aichi-med-u.ac.jp/su10/su1014/index.html>)

資料37：シミュレーションセンター図面

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 創立40周年記念事業としてのキャンパス整備が2018年に完了しており、新病院建設事業も実現している。
- ・ 2016年度にキャンパスマスタープランを策定し、それに沿った整備計画が遂行されている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ ICT 設備を充実させつつある中、コロナ禍により、授業スタイルの柔軟な変更が求められ、これまでに構築してきた授業支援システム（AIDLE-K：本学の moodle の名称）が役立ち、利用実績が大幅に増加し、有用性が発揮された。この AIDLE-K については 2020 年バージョンアップ（moodle ver.3.1→ver.3.9）を行った。
- ・ 遠隔授業の必要性から Web 会議システム（Zoom）を授業に活用した。教職員の医療安全教育等にも Zoom を活用し、これまで以上の参加者を得ている。今後、これら ICT 全般について利便性を高めるよう検討し、教育レベルの質的向上に努める。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 大学病院と、80 か所近い学外の実習協力病院が、学生の臨床経験の場として確保されている。
- ・ シミュレーションセンターが整備され、専任教員が配置されており、学生の技能訓練の場として随時機能している。
- ・ 医学教育センターの主導により「医学教育担当教員連絡会」が毎月開催され、臨床実習指導者の情報交換や FD の場として機能していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2020-2021 年クリニカル・クラークシップでは、大学病院と実習協力病院、及び学生の感染防御と安全を考慮し、状況によって中断と再開を繰り返した(資料 38)。学生・教員へのコロナウイルスワクチンの接種を計画し、安全の確保に努めながら、感染状況を踏まえて、臨床実習の実施方法を検討する。
- ・ 2021 年度より岡崎市に愛知医科大学メディカルセンターとして分院の設置を計画している。これからの高齢化社会が求める医療と医療人の養成を目指し、地域医療の実際を学ぶ場として分院の活用を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 38： クリニカル・クラークシップ学外実習中止の通知

質的向上のための水準： 適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

6.3 情報通信技術

基本的水準： 適合・・・指摘事項無し

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.33 の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- [情報通信技術の有効かつ倫理的な利用]には、図書館サービスと共に(以下略)
- [倫理的な利用]は、医学教育と保健医療の技術の発展に伴い、(以下略)
 - ・ 適切な情報通信技術の有効かつ倫理的な利用と、それを評価する方針を策定して履行しなければならない。(B6.3.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準： 適合

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.33 の内容は以下のとおりである。

医学部は、

- 教員および学生が以下の事項についての既存の ICT や新しく改良された ICT を使えるようにすべきである。
- 情報の入手 (Q 6.3.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学内 LAN やマルチメディア教室などが整備され、授業支援システム「AIDLE-K」や自習用 e ラーニングコンテンツが提供されている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、Zoom を利用した遠隔講義が一般化した。大学で専用アカウントを確保し、利用を促進した。学生・教員共に遠隔講義による効果的な教育について検討を続けていく。
- ・ AIDLE-K については 2020 年にバージョンアップ (moodle ver.3.1→ver.3.9) を行った。今後も ICT 全般について利便性を高めるよう推進していく。
- ・ 医療のための情報学では、情報倫理や情報セキュリティに関する講義を実施している(資料 39)。
- ・ また、全教職員に対して標的型攻撃メール訓練を複数回実施し、知識と意識の向上を図った(資料 40)。

改善状況を示す根拠資料

資料 39 : 2020 年度教科案内 (医療のための情報学)

資料 40 : 標的型攻撃メール訓練通知

6.4 医学研究と学識・・・指摘事項無し

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.33 の内容は以下のとおりである。

医学部は

- ・ 研究の施設・設備と重要性を記載しなければならない。(B 6.4.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

6.5 教育専門家

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学教育センターの教員など、必要に応じて教育専門家にアクセスできる。
- ・ カリキュラム開発、教育技法および評価方法の開発、FD などにおいて、教育専門家を利用するための組織や体制が整っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 外部の教育専門家が定期的に会議に参加しており、今後も継続していく(資料1)。
- ・ 教育専門家を招聘しFDの開催を計画する。

改善状況を示す根拠資料

資料1： 2020年度医学教育センター部門員表(学生委員含む)

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教育専門家の活用状況については、広報誌やホームページ等を通じて学内外に示している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センターの活動状況や医学教育の動向を「医学教育センターニュース」として

学内に配布している(資料 41)。

- ・ 医学教育センターの活動状況を年次報告書としてまとめ、学内・学外に提示をしている(資料 42)。

改善状況を示す根拠資料

資料 41：2020 年度医学教育センターニュース(4 回分)

資料 42：2019 年度医学教育センター・IR 室・シミュレーションセンター年次報告書

6.6 教育の交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 海外の教育機関との交流を促進するための協定締結が行われている。
- ・ 海外の教育機関への学生派遣や海外の教育機関からの学生の受入が継続的に行われている。
- ・ 多職種連携教育を通じて近隣の大学との協力関係が構築されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2020 年度より新型コロナウイルス感染の世界的な蔓延により、交流が一時的に停止しているが、通常の流れが可能となるまでの間は、留学準備期間とし、留学のための勉強会などを行っていくことを計画している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教職員や学生の海外研修時の経済的補助や、海外からの留学生に対する宿泊施設の無償提供など、適切な資源が提供されていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 学術国際交流協定を締結した大学は、2020年4月にポズナン医科大学（ポーランド）、シーラーズ医科大学（イラン・イスラム共和国）、キエフ医科大学（ウクライナ）が加わり、全部で9校となった（資料43）。

改善状況を示す根拠資料

資料43：ホームページ：国際交流センター (<https://amu-international.wixsite.com/kokusai>)

7. 教育プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ プログラム改善のために定期的かつ統轄的に教学に関するデータを収集・解析すべきである。
- ・ プログラム評価を実質的に行い、その評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 教育カリキュラムとその構成要素、課題の特定と対応のために、医学教育センターのカリキュラム評価部門を、さらに権限と機能の明確化するために教育プログラム評価委員会へ向けて改善の準備を進め、医学教育センターから独立した権限と機能強化のための体制強化を図る予定である(2021年4月1日から施行予定)(資料2, 44)。今後は新しい体制の教育プログラム評価委員会からのフィードバックをカリキュラムへ確実に反映できるように計画する。
- ・ 教学に関するデータを収集するために、医学部 IR 室の体制整備を進め臨床研究支援センターからの教員支援を図り、機能できる増員を行った。
- ・ IR 室を中心とした教学に関するデータ収集のために、AIDLE-K 利用による授業評価アンケートを行う体制を整えた。それらデータは、すべて教科担当教員に早急にフィードバックされ、各々のカリキュラム向上に反映できるようにした(資料45)。
- ・ 医学部 IR 室にて、入学時選抜試験の成績、在学時の成績、出席状況データと授業アンケートの収集を進めており、上記体制において解析を行うシステム構築を進める。
- ・ 国家試験対策のための医師国家試験対策強化委員会が継続的に各試験と国家試験合格状況との相関を検証している。これらを解析し反映することを検討する。なお、これらデータはすでに5・6学年次へのガイダンスなどでの実践には用いられている。

改善状況を示す根拠資料

資料 2： 愛知医科大学医学部教育プログラム評価委員会規程

資料 44： 医学部教授会議事録（プログラム評価委員会設置）（2020 年度第 14 回）

資料 45： 講義振り返りアンケートとその結果

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得できる学修成果および社会的責任について包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ カリキュラムの特定の構成要素および長期間で獲得される、例えば紙面以外での評価を取り入れるために、教育プログラム評価委員会での包括的評価を推進する。
- ・ 社会的責任の評価のために、本学同窓会組織との連携とともに上記委員会などとの情報共有を推進する。

改善状況を示す根拠資料

なし

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準：部分的適合

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.33 の内容は以下のとおりである。

- ・ [フィードバック]には、(中略)教員または学生による不正または不適切な行為に関する情報も含まれる。

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラム全体に関する学生からの意見を系統的に収集し、分析して、対応すべきで

ある。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センターカリキュラム評価部門会議においては、常に各学年1～2名の学生参加を得て、学生からの意見を収集している(資料1)。今後、カリキュラム評価部門は、医学教育センターから独立し、教育プログラム評価委員会を設置することを検討している(資料2)。新たな委員会にても引き続き学生を参画させ、分析対応を強化する。
- ・ 医学教育センター臨床教育部門では臨床実習WGなどによる学生意見聴取を得て、クリニカル・クラークシップBの選択ルールを教務委員会の審議を得て改正した(資料46)。このような具体的な対応を今後、医学部IR室での情報収集とともに教育プログラム評価委員会での系統的かつ包括的な対応へと強化する。

改善状況を示す根拠資料

資料1： 2020年度医学教育センター部門員表(学生委員含む)

資料2： 愛知医科大学医学部教育プログラム評価委員会規程

資料46： 教務委員会議事録(2020年第9回教務委員会)

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教員や学生からプログラム評価のためのフィードバックを解析し、その結果を利用してプログラム開発を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センターカリキュラム評価部門において、医学部IR室が実施したカリキュラム調査を提示、評価した。ここでは、各科目責任者へ各科目がどのコンピテンシーを網羅しているかを問う調査や、マイルストーンに基づいた学生のコンピテンシー・コンピテンシー修得度評価が経時的に行われ、その結果が提示されている(資料4,47)。今後、カリキュラム評価部門(2021年4月より教育プログラム評価委員会)の権限においてその結果をさらに明確に分析し、医学教育センターカリキュラム検討部門でのプログラム開発に反映させている。
- ・ クリニカル・クラークシップA・B共に、各診療科からの評価コメント(良い点・改善必要項目)の学生への定期的なフィードバックを2020年10月から開始した(資料31)。医学教育センター臨床教育部門から教務委員会および教授会を経て実施に至り、改善点

を明確にして学生に臨んでもらうため利用している。これらの学生へのフィードバック等をさらに体系的に継続および解析し、その結果を利用できる体制構築を進める。

- ・ 医学教育センターにおいて、学生からの診療科へのアンケートを実施・回収し、そのコメントを各診療科へ返却し、診療科によってはそれを医局員に展開することで、各科での実習プログラムの改善に活かしている(資料 48)。これらを医学教育センターカリキュラム評価部門(2021 年 4 月より教育プログラム評価委員会)においても体系的に行う方針である。

改善状況を示す根拠資料

資料 4： 2019 年度卒業時コンピテンス・マイルストーン調査

資料 31： クリニカル・クラークシップ指導医による学生評価の学生へのフィードバック

資料 47： 2019 年科目責任者によるコンピテンス・コンピテンス・マイルストーン調査

資料 48： 学生による診療科別クリニカル・クラークシップ終了時調査

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 意図した学修成果について学生と卒業生の実績を客観的に分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2017 年より卒業予定者アンケートを毎年経年的に実施している(資料 3, 49, 50)。これらを医学部 IR 室において統合し、カリキュラム評価部門および医学部長への提供共有を行うとともに、ホームページの公開情報内に毎年掲載を進めて公開している(資料 51)。
- ・ 卒業生の実績についての調査については、同窓会(愛橘会)との強力な連携のもとに、学内卒業生教員の協力も得ながら実績の収集分析を推進する。

改善状況を示す根拠資料

資料 3： 2019 年度卒業予定者アンケート(コンピテンス、コンピテンス調査)

資料 49： 2018 年度卒業予定者アンケート(コンピテンス・コンピテンス調査)

資料 50： 2020 年度卒業予定者アンケート(コンピテンス・コンピテンス調査)

資料 51： ホームページ：公開情報 (<https://www.aichi-med-u.ac.jp/su02/su0206/index.html>)

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学生の実績の分析を行い、責任がある委員会へフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センターカリキュラム評価部門では、学生からのカリキュラムに関するアンケートの分析を開始している(資料 45)。ただし、その分析・評価がカリキュラム検討部門および教務委員会などへのフィードバックは十分ではない。今後、カリキュラム評価部門(2021年4月より教育プログラム評価委員会)において、明確化された権限のもとに、医学部 IR 室による収集データの分析についての評価を進め、カリキュラム検討部門および教務委員会など責任ある委員会へのフィードバックの体制を確立する。
- ・ マイルストーンに基づいたコンピテンス・コンピテンシー修得度評価が学生向けに経時的に行われ、医学教育センターカリキュラム評価部門において共有されている(資料 52)。今後、これらをいかに分析し、さらには学生の実績として活用するかをカリキュラム評価部門で議論し、医学教育センターカリキュラム検討部門への提示とともにプログラムの PDCA サイクルを明確化する。

改善状況を示す根拠資料

資料 45：講義振り返りアンケートとその結果

資料 52：医学教育センターカリキュラム評価部門会議議事録(2020年第3回)

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 医学教育センターカリキュラム評価部門に学生代表を参加させ、学生の意見をプログラム評価に反映させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 2020 年度の医学教育センターカリキュラム評価部門会議には、常に各学年 1～2 名の学生参加を得て、学生からの意見を収集している(資料 53)。今後、その内容をプログラム評価改善に反映させるべく推進してゆく。

改善状況を示す根拠資料

資料 53：医学教育センターカリキュラム評価部門会議議事録（2020 年第 1 回）

質的向上のための水準：部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医学教育センターカリキュラム評価部門によるプログラム評価の結果を閲覧できるようにすることが望まれる。
- ・ 卒業生が将来働く環境からの卒業生の実績に対するフィードバックを得て、教育プログラムを適切に改良することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 継続的に実施している卒業予定者アンケートは大学ホームページに公開している(資料 51)。
- ・ 医学教育センターカリキュラム評価部門では、医学部 IR 室が収集した様々なアンケート結果の議論は行っているが、その内容およびプログラム評価の結果を広く閲覧できる状況には至っていない。今後、積極的な結果閲覧などの情報公開を推進する。
- ・ カリキュラム評価部門では、本学卒業生研修医なども委員として参加しており、卒業生・研修医の立場からのカリキュラムに対する意見聴取も開始している。今後、これら意見聴取をさらに充実させる。
- ・ 卒業生アンケートより卒業生のデータは収集しているが、その検討は十分にされていない。

改善状況を示す根拠資料

資料 51：ホームページ：公開情報

(<https://www.aichi-med-u.ac.jp/su02/su0206/index.html>)

8. 統轄および管理運営

8.1 統轄

基本的水準：適合…指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学教育センターのカリキュラム検討部門とカリキュラム評価部門に父兄後援会・医学部同窓会の代表や他大学の医学教育専門家を加えている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 医学教育センターのカリキュラム評価部門を発展的に解消して、より客観的かつ多様な意見を収集・分析することを目的に、2021年4月に医学部に教育プログラム評価委員会の設置を予定している(資料2, 44)。

改善状況を示す根拠資料

資料2： 愛知医科大学医学部教育プログラム評価委員会規程

資料44： 医学部教授会議事録（プログラム評価委員会設置）（2020年度第14回）

8.2 教学のリーダーシップ…指摘事項無し

基本的水準：適合…指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

8.3 教育予算と資源配分・・・指摘事項無し

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

8.4 事務と運営・・・指摘事項無し

基本的水準：適合・・・指摘事項無し

医学教育分野別評価基準日本版の改訂があり、Ver.2.33 の内容は以下のとおりである。

- ・ [事務職員および専門職]とは、方針決定と方針ならびに計画の履行を支援する管理運営組織の職位と人材を意味し、(以下略)
 - ・ 以下を行うのに適した事務職員および専門職員を配置しなければならない。

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ なし

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 長久手市・尾張旭市・瀬戸市と包括連携協定を結び、公開講座・医療活動支援・事業企画(サイエンスカフェ)を行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 尾張旭市との共同開催による公開講座を2020年11月に初めて実施した(資料54)。
- ・ 本学が参画している長久手市大学連携事業で企画した本学医学部の授業を同市内4大学合同の公開授業として実施した(資料55)。

改善状況を示す根拠資料

資料54：2020年度愛知医科大学公開講座(尾張旭市連携事業)

資料55：4大学合同の公開授業の資料

質的向上のための水準：適合・・・指摘事項無し

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

9. 継続的改良

基本的水準：適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 機関別認証評価と医学教育分野別評価を受け、組織と機能の改善や課題の修正に取り組んでいる。
- ・ 私立大学等改革総合支援事業(タイプ1：教育の質的転換)に採択され、教育の特色化や機能強化に全学的に取り組んでいる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・ 私立大学等改革総合支援事業において、2019年、2020年と選定されている(資料56)(資料57)。

改善状況を示す根拠資料

資料56： ホームページ お知らせ (令和元年度私立大学等改革総合支援事業選定)

資料57： ホームページ お知らせ (令和2年度私立大学等改革総合支援事業選定)

質的向上のための水準：評価を実施せず